

児童養護施設の子ども達へキャリア教育の機会を提供 (NPO法人フェアスタートサポート×有限会社グリーンフーズあつみ)

取組の概要

児童養護施設で生活をしている高校生2名に質の高いキャリア教育の機会を提供することができた。

児童養護施設の子ども達にキャリア教育の機会を提供できる当団体と、子ども達の職場見学受入れ等を積極的に担われているグリーンフーズあつみ様との連携により実現。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

児童養護施設出身者達は、施設で生活をしている頃にキャリア教育の機会が不足していることなどが理由で、質の低い就職活動を行いやすく、結果的にミスマッチによる早期離職が多発。離職を機にワーキングプアへ移行しやすく、貴重な若者達に貧困の連鎖が起きている。

解決に向けた具体策と成果

小中高生の頃に様々な職業に触れることで視野が広がり、はたらくイメージも具体化し、進路選択の質が高まる。

取組による定量的な効果

キャリア教育に恵まれた子ども達は早期離職率が低下する。
当団体の実績:就職後1年内離職率19% (業界平均値43%)

連携のポイント

連携を通じて、どのような社会課題を解決し、地域や次世代に貢献したいのかを双方合意しておくことが大切。

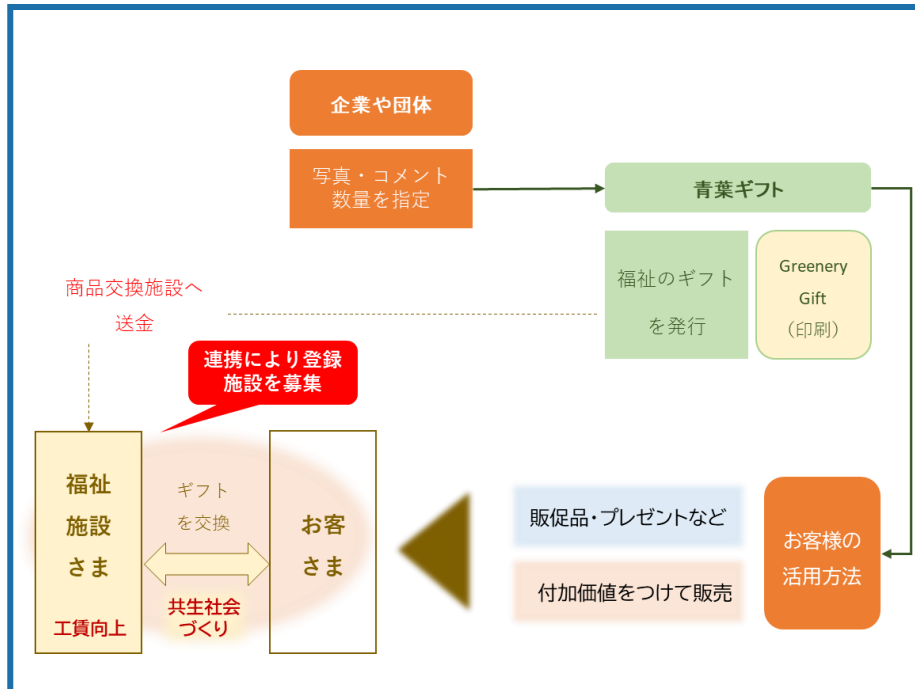
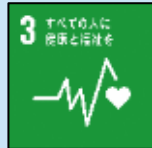
自主製品の新たな販路、福祉商品に交換できるデジタルギフトの活用

(株式会社青葉ギフト × 認定特定非営利活動法人なぎさ会)

取組の概要

青葉ギフトが保有する『福祉商品に交換できるギフトのプラットフォーム』となぎさ会が保有する『小田原地域での福祉関係者とのつながり』を活用して、小田原地域の福祉サービス事業所の制作する自主製品の新たな販路を組成。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

「共生社会づくり」「障がい者の工賃向上」は、全国的な長年の課題となっている。小田原地域でも同様であり、新たな販路を欲していた。大量注文の受入れを可能とするなどデジタル化したギフトが企業や団体のノベルティを中心とした新たな販路となる可能性があることから、連携して取り組むこととなった。

解決に向けた具体策と成果

なぎさ会さんの引き合わせで、小田原市福祉健康部、小田原市社会福祉協議会にご協力いただき説明会を実施

取組による定量的な効果

9月末時点で5事業所にご協力いただき、店頭交換場所3か所、WEB交換に16商品の登録がされている。ギフトの交換も7件発生。

連携のポイント

テーマや目標を共有し、双方の信頼度を高め、リソースを効果的に提供し合う

神奈川の食品ロスを神奈川の支援活動で有効活用

(NPO法人セカンドリーグ神奈川×東京中央食品(株))

取組の概要

東京中央食品は自社で販売予定のない業務用冷凍食品をNPOセカンドリーグ神奈川に寄贈し、セカンドリーグ神奈川は県内で活動する生活困窮者支援を行う地域団体に提供する。地域団体は子ども食堂や生活困窮者に食品を配布するフードパントリー、青少年支援など約90団体となっている。

該当するSDGs目標

(3つまで)



取組を始めた動機・課題

東京中央食品はロット端数や賞味期限前ながら販売期限を超過し販売できない食品があり、業務用と販路も限られるため**廃棄処理**していた。セカンドリーグ神奈川は県内13か所で支援団体向けに定期的に食品配布を行っているが、原材料高騰もあり**支援食品が減少**するなど課題があった。

解決に向けた具体策と成果

両組織の食品寄贈の連携は2025年9月から実現した。9月は約1700キロの寄贈、10月は150キロの寄贈が予定されている。

取組による定量的な効果

寄贈食品はロス商品につき数量の見込みは難しい。推測だが本年10月並みの寄贈量を隔月でいただけると期待する。

連携のポイント

神奈川県内の企業とNPOが連携し、**食品ロスを生活困窮者支援に活用することができた。**

アップサイクルで咲かせる未来の花～ファンケル・石井造園と創る緑の学校～ (株式会社ファンケル×石井造園株式会社)

取組の概要

両社が取り組むSDGsを題材にした座学をもとに児童が環境について考える時間を設けた後、ファンケルの化粧品の使用済み容器から生まれた植木鉢に、樹木医資格を持つ石井造園の講師の指導の下、花の苗を植えるワークショップを行う。植物を愛でる体験と花と緑に囲まれた学校での生活を通じ、環境を大切にしたい想いを育む機会を醸成している。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

2021年開始の「ファンケル SDGs講座」で行ってきた、児童・生徒とともにプラスチック問題について考える講座を、“体感”を加えた環境啓発に進化させるべく、従前より環境への取り組みを積極的に推進する石井造園に声を掛け、想いが一致したことで協働。体験学習を通じ、未来を担う児童に環境問題への関心・意識を高めてもらうことを目的としている。

解決に向けた具体策と成果

左記の講座を受講した児童が、その年の卒業生に育てた花を贈る学校もある。未来を担う子どもたちの環境と人を思いやる豊かな心の教育機会につながっている。

取組による定量的な効果

2024年1月に横浜市立六浦小学校で実施。掲載メディアから波及し、2025年12月迄に3校250名に実施予定。学校に250鉢の花を咲かせ、化粧品容器約1,400本が捨てられず再利用された。

連携のポイント

両社の想いと強みを統合させて子どもたちの環境啓発と地域貢献が行えている点

産業能率大学インターンシップ異業種連携事例工場見学会実施

株式会社デコリア × 株式会社高部金属

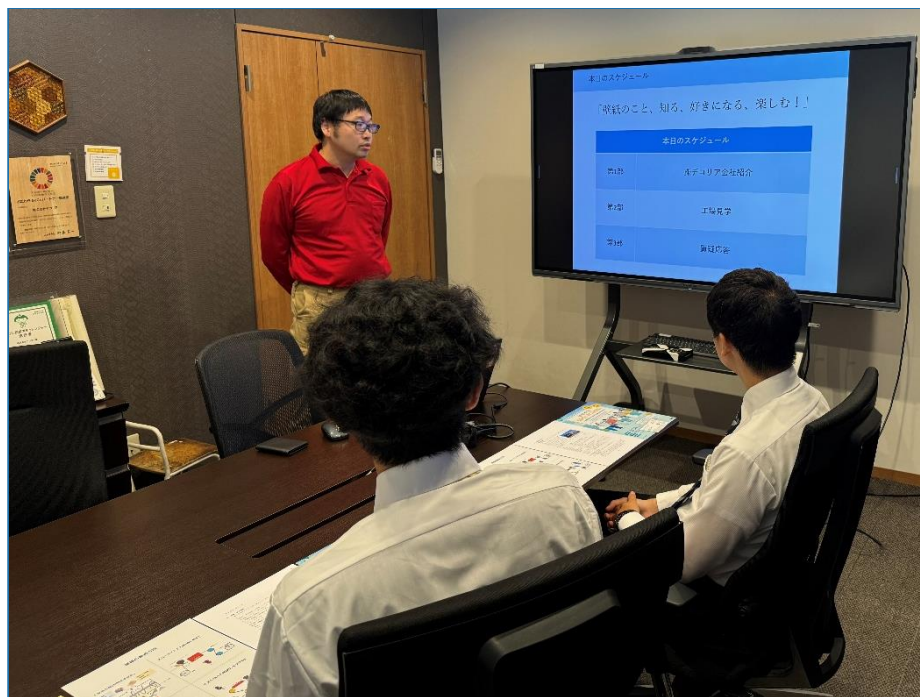
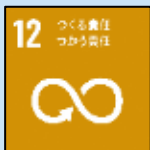
取組の概要

株式会社高部金属が産業能率大学のインターンシップを受け入れるにあたり、学生がBtoBの業務プロセスへの理解を深めることを希望されました。これを受け、以前より連携している株式会社デコリアへ協力の依頼がありました。

取組を始めた動機・課題

当社のマテリアリティである「**子どもに未来を**」の実現と連携強化を目的に、インターンシップ依頼を快諾。学生に対してBtoB業務についての説明経験がないという課題からプログラムを新規作成し、『**異業種連携による価値創造を学ぶ**』をテーマとした勉強会と工場見学を実施し、学生の学びを支援しました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

- ・株式会社デコリア × 株式会社高部金属の令和6年度かながわみんなのSDGs連携事例を元に勉強会の実施。
- ・工場見学で現場を見て肌で感じて貰う機会を提供。

取組による定量的な効果

参加した学生から異業種連携の可能性を体感し、2社の真摯な分別・リサイクル姿勢から多くを学んだと感想を頂く。

連携のポイント

連携の継続性を高める為、定期的に対面し情報交換の実施。

神奈川県内を中心に全70か所の児童クラブが黒板壁紙端材SDGsアートに挑戦！

(株式会社明日葉 × 株式会社デコリア)

取組の概要

デコリア社との連携第3期。黒板壁紙の端材をキャンバスにし、明日葉が運営する学童クラブの児童が**自分の暮らす街の四季**を描いた。デコリア社と数か所でワークショップを実施。今回は小田原市を中心に川崎市など**70か所のクラブ**が参加。**オンラインで互いの作品を発表**。作品は「おだわらSDGsデイ2025」でも展示された。

該当するSDGs目標

(3つまで)



取組を始めた動機・課題

児童がみんなで一つの作品を作り上げて共有し合うことで、自分たちの街を好きになる**シビックプライドの醸成**や、**身近にある自然を大切にすることを育む、リサイクル意識を高める**など、SDGsへの学びを深めるため。

解決に向けた具体策と成果

「学ぶ・描く・シェアする・発表する」という4ステップで作品制作。自分の身の回りにある自然や町づくりを思い返してみるという時間を作り、SDGs学習に繋がった。

取組による定量的な効果

第3期目は、小田原市を中心に横浜市や川崎市など県内で連携エリアを拡大。作品数も前年度44作品から約**1.6倍**に。

連携のポイント

デコリア社が明日葉クラブにてワークショップを実施。成果発表として各地域のクラブを繋いで交流。

明日葉の児童クラブで「水」がテーマのSDGs教室第2弾を実施！

(株式会社明日葉×ウォータースタンド株式会社)

取組の概要

明日葉が運営する学童クラブで、ウォータースタンド社、と連携して昨年度に続き2回目のSDGs教室を開催。

「水」をテーマに水資源の持続可能な利用方法について学びを深めた後、「森のマイボトル」づくりに挑戦！環境にやさしい行動を始めるきっかけになりました。

該当するSDGs目標

(3つまで)



取組を始めた動機・課題

児童が地域社会への環境意識を高めること、そして水資源の重要性と持続可能な利用方法について学びを深め、SDGsを身近なものとして意識づけるため。

「マイボトルを使う」など、環境課題を解決する行動を学ぶため。

解決に向けた具体策と成果

放課後児童クラブで、環境問題を考えるSDGs教室を開催。地域の環境課題や水資源問題について学び、持続可能な環境を守るためにできること児童がそれぞれ考えた。

取組による定量的な効果

講座実施によりSDGsの理解が深まり、以前よりマイボトル含め水筒を持参する児童が増加した。

連携のポイント

昨年度に続く第2弾として着実に連携の深度が高まっている。

明日葉の児童クラブでワックスの廃液を使用したSDGs出前授業を実施！

(株式会社明日葉 × 和光産業株式会社)

取組の概要

明日葉が運営する学童クラブで、和光産業株式会社と連携SDGs教室を開催。

廃棄していたものが製品に生まれ変わる「**3R**」流れを学んだ。また、ワックスの廃液を使って実験と再利用を行い、芳香剤づくりに挑戦。自らリサイクルを体験した。

該当するSDGs目標

(3つまで)

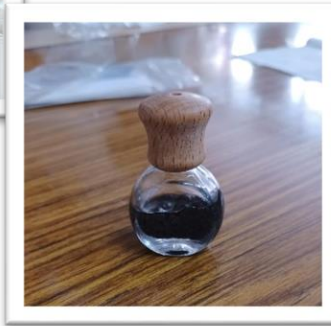
11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任、つかう責任



17 パートナーシップで目標を達成しよう



取組を始めた動機・課題

神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室SDGs推進グループ様から**連携パートナー企業の紹介**をいただいたことがきっかけとなり、SDGs教室が実現。教室や電車など身近に利用している場所の床に使用している「ワックス」の再利用方法を学ぶため。

解決に向けた具体策と成果

自らワックスの廃液を芳香剤に生まれ変わらせる体験を通し、**使い終わった素材をリサイクルするなど行動**に繋げる考え方を学んだ。

取組による定量的な効果

1年生から6年生までの児童約30名がSDGsについて学びを深めた。

連携のポイント

双方の強みを活かした連携。

明日葉の児童クラブで小田原の魅力再発見！3社連携で夏休み特別イベント開催

(株式会社明日葉×さがみ信用金庫、鈴廣かまぼこ株式会社)

取組の概要

明日葉が運営する児童クラブで小田原市を拠点とする、さがみ信用金庫、鈴廣かまぼこ株式会社が連携して夏休み特別イベントを実施。湘南ベルマーレフットサルクラブ所属の堀内迪弥選手を講師に迎え、「お金」「食」「運動」をテーマに、それぞれの企業が持つ強みを活かしたワークショップを行った。

該当するSDGs目標

(3つまで)



取組を始めた動機・課題

今年度さがみ信用金庫の「お金」についての出前授業を児童クラブで実施。その活動の流れでこの夏、小田原市内SDGsパートナー企業3社合同で、こどもたちが地域の魅力を体感し、愛着や誇りを持つきっかけを作れないかと考え多角的な視点で連携が実現。

解決に向けた具体策と成果

放課後児童クラブで、「お金・食・運動」テーマにイベントを開催。地元の魅力とともに、将来（プロ）につながる知識を児童らに伝えた。

取組による定量的な効果

小田原市内を拠点とするSDGsパートナー3社が連携。3クラブで実施し1年生から6年生までの児童約90人が参加。

連携のポイント

4社がそれぞれの強みを活かし、地育（地域）・食育・金育（金融）・運育（運動）・保育の5育を実現。

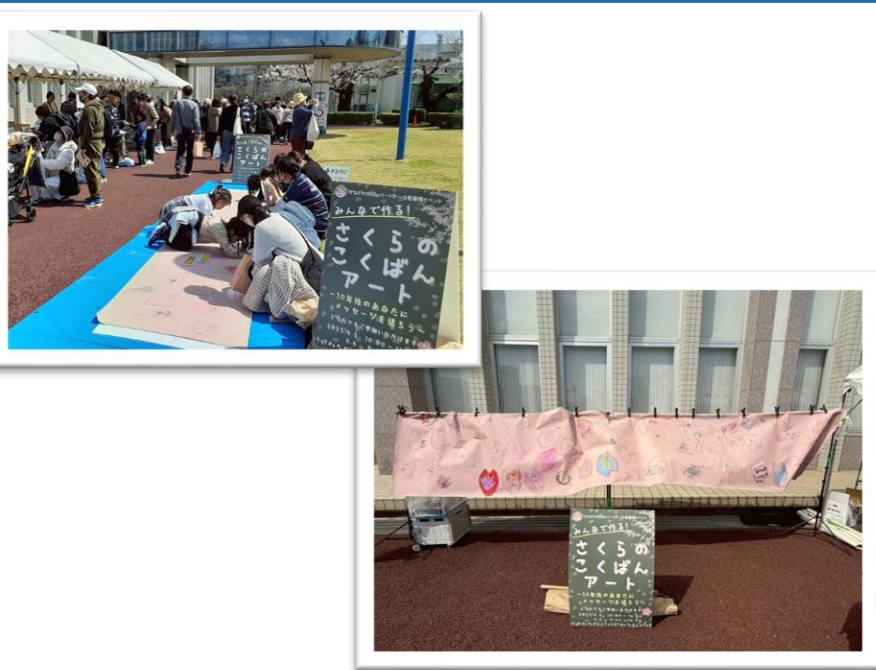
出前授業のコラボ開催からの連携！国立印刷局主催の観桜会でのブース出展！

(株式会社明日葉 × 国立印刷局小田原工場 × 株式会社デコリア)

取組の概要

国立印刷局小田原工場が主催の観桜会にブース出展のご依頼をいただき、コラボのクイズ企画、廃材工作ワークショップや株式会社デコリアと共創し、「10年後のあなたにメッセージを送ろう」をテーマに株式会社デコリアより提供していただいた黒板壁紙（さくら色）の端材で来訪者の方々にアート作品を作成してもらいました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

小田原市のSDGsパートナー同士という繋がりから国立印刷局とは昨年度から継続的に放課後児童クラブでの新札についての出前授業を開催しており、市内22クラブで実施している取り組み。その連携から観桜会へ声がけいただき、ブース出展することとなる。

解決に向けた具体策と成果

パートナー企業の連携を通して、自分たちが住むまちの魅力を感じてもらうとともに、それぞれの企業が取り組んでいるSDGsに関する取り組みを知ってもらう機会となった。

取組による定量的な効果

小田原市・南足柄市で新札の出張授業を実施。また観桜会でのアート作品は、5mサイズの壁紙4枚分の作品が完成。

連携のポイント

昨年度から今年度への継続した児童クラブでの連携イベント実施の実績から、今回の取り組みが実現した。

廃棄トマトをアップサイクルしてカルトンに (株式会社MURONE × 横浜農業協同組合)

取組の概要

J A 横浜が横浜市内のトマト生産者の方々に呼びかけて集めた**廃棄トマト**を、(株)MURONEが乾燥粉碎を行い、プラスチックと混ぜ、**カルトンにアップサイクル**しました。これにより、廃棄物の減量による**トマト生産者の方々の負担軽減と40%の脱プラスチックが実現**。このカルトンはJ A 横浜の支店窓口や農産物直売所で活用されています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

廃棄トマトの処分が生産者の方々に負担となっていました。レモンの搾りかすをお猪口にアップサイクルした技術を応用し、**廃棄トマトをアップサイクル**する取り組みを始めました。しかし、**トマト100%**では強度を確保する事が出来ず、樹脂と混ぜ成形しましたが、当初は形になりませんでした。

解決に向けた具体策と成果

そこで、**乾燥前に工程を追加**することで、**カルトンに含むトマト含有率を当初より倍増**出来ました。これにより、生産者の方々の更なる負担軽減と脱炭素に繋がりました。

取組による定量的な効果

今回のアップサイクルにより、**約900kgの廃棄物の減量**。更に**0.069t/カルトン500枚のCO₂低減**が見込まれます。

連携のポイント

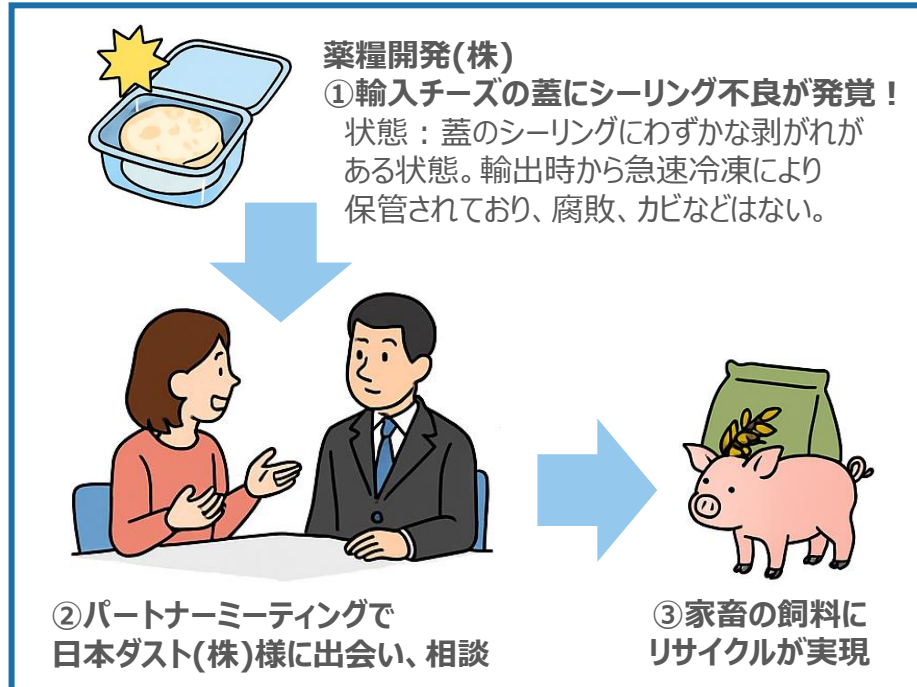
異業種間でも技術や知恵を持ち寄り、現場課題に真摯に向き合う事で課題解決に貢献する事が出来ました。

食品に新たな命を～廃食品を家畜の飼料にリサイクル～ (薬糧開発株式会社 × 日本ダスト株式会社)

取組の概要

薬糧開発(株)が輸入したチーズに包材不備が認められ、原材料としての使用は不可となりましたが、パートナー企業日本ダスト(株)とのコラボにより、家畜用飼料として有効活用することができました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

薬糧開発株式会社はオーガニック食品を製造、販売しています。そのため、食品ロス削減は常に課題となっていました。一方、かながわSDGsパートナーミーティングで知り合った日本ダスト様は、「廃棄物に新しい命を」との言葉を掲げておられ、当社の廃食品にも価値を見出すヒントを授けてくださいました。

解決に向けた具体策と成果

日本ダスト(株)様および委託処分先、エコ・フード様に、家畜の飼料へのリサイクルを依頼。食品ロスを防ぐとともに、畜産資源の循環利用に貢献しました。

取組による定量的な効果

2025年4月にチーズ550kg、その後、他商品130kgをリサイクルしています。

連携のポイント

サステナビリティという共通のキーワードにより、思わぬ業態の企業様と新たな発想でつながることを実感しました。

生ごみを豚の餌へ！食品リサイクルループを実現 (レンブラントホテル海老名×小田急電鉄株式会社)

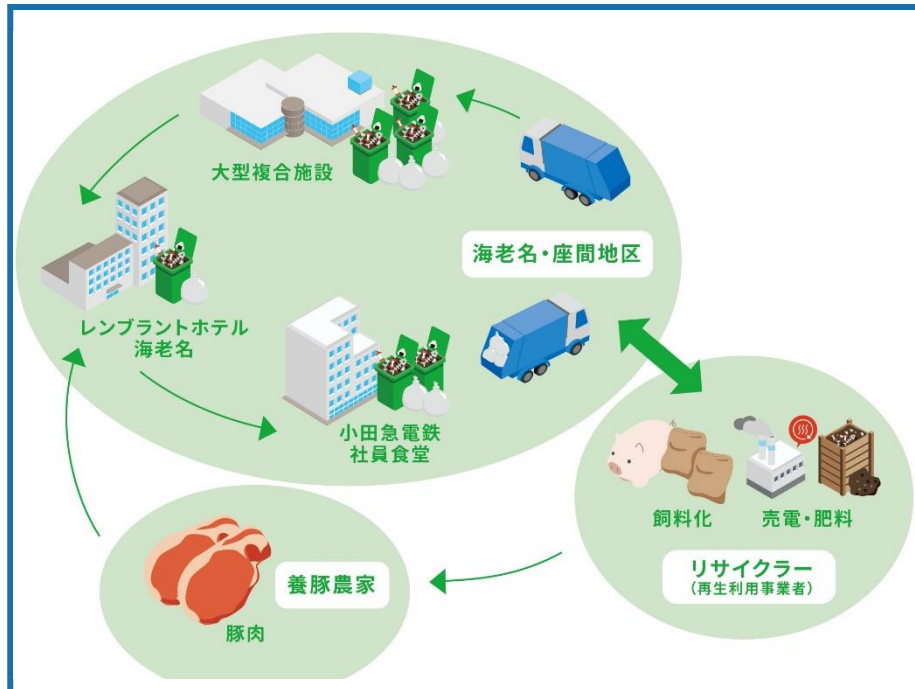
取組の概要

生ごみを、**豚の餌へと飼料化**。小田急電鉄株式会社とレンブラントホテル海老名は、地域の飲食店や施設を回る共同回収ルートを構築したことで、効率的な収集が可能となり、コストや運搬時の環境負荷を抑えながらの食品リサイクルが実現！

取組を始めた動機・課題

レンブラントホテル海老名から排出される食品廃棄物は年間26トンを超えており、食品ロスを削減する取り組みも行っているが、それでも出てしまう食品の端材やbuffet台の残りをどうにかしたいと思っていた。自社だけでは運搬費などにコストがかかりすぎてしまい、見送りとなっていた。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

ホテルのレストランや厨房からどのような生ごみが排出されているか調査。調理場のスタッフに分別についてのレクチャーを行い、実施。こまめに分別のチェックを行った。

取組による定量的な効果

ホテルから排出される食品廃棄物のうち、**25%をリサイクル**に回すことに成功。

連携のポイント

食料廃棄に対し、同じ悩みを抱える事業者と意見交換を行い、地域のリサイクルの輪の更なる広がりを期待する。

不要な衣料品回収イベント

(株式会社BPLab × 一般社団法人F・マリノススポーツクラブ)

取組の概要

2023年、かながわSDGsパートナーミーティングにて出会い、不要になった衣料品を再利用・再資源化する取組を連携して行った。横浜F・マリノスが日産スタジアムのホームゲームにて衣料品を回収。回収した衣料品をBPLabがリユースし、リユースできないものは繊維の種類ごとに分けて、横浜F・マリノスが新たな衣料品や雑貨に生まれ変わらせた。

該当するSDGs目標

(3つまで)



取組を始めた動機・課題

ユニフォームなど思い出があるけれど、不要になったものを捨てるのではなく、循環させて新しい形に変えられればというファン、サポーターの思いを形にし、ともに衣料品廃棄の社会問題を解決するために始めた取組です。

解決に向けた具体策と成果

回収した衣料品を再資源化して、そこからの原料を使った新たな衣料品や雑貨を作り、販売しています。今では横浜F・マリノスの公式グッズとして提供できるところまでできました。

取組による定量的な効果

半年間で、衣料品 約600kgの回収をしてリサイクルしました。(年間約1.2トン)

連携のポイント

衣料品の廃棄の社会課題を、スポーツの応援を通して、衣料品回収→循環商品購買によって解決をする取り組み